

1.121 | 2.16.6 | 6 | 0 | 1.1.1.1 | 1.1.1.1.1.

ヨララキ オヨルナヨ | オヨラバ ハシイカラ

216.6 | 6 | 0

ヨラツカ、ヒ

寄合
雀のよりやひ チウチウ バイバイ

これによりても おこるなよ
加ハリテモノ意

おこらば初めから よらんがえ
加ハラマがヨイノ意

この謡は子供(主に女兒)の集り、鬼ごつこして

遊ばんとするにあたり、まづ鬼を定むる必要あり、

依りて子供は、各自の手の掌に袖を乗せ、圓形を

造り、一人が手先にて この拍子に合せつゝ、各

々の袖の上を打つ、一度この歌を歌ひ終りたるど

同時に、打たれたる者は 鬼たるを免るゝなり。

人数丈この歌をくり返し歌ひて、誰か一人、最後

まで残る。残りたるものが鬼となり 他は皆人と

なりて鬼ごつこが始まる中々おもしろし。

盛岡地方の手毬歌お手玉歌

盛岡 山村 材美

一、大海日大晦日三十日の晩に、一夜源之助が、か
るたに負けた負けた負けたは、幾許ほど負けた、金
が三兩に、小袖が七ツ、七ツ七ツは十四の事よ、お
らも其時、十四であつた、おらが姉さん三人御座
る、一人姉さん太鼓が上手、二人姉さん鼓が上手
いツちよのが下谷に御座る、下谷一番伊達者で御
座る、五兩で帯買つて三兩で紵けて、紵け目紵け目
へ七總さげて、折り目、折り目へ口紅さして、今
年始めて花見に出たら、寺の和尚に抱きとめられ
て、よしやれ、放しやれ、帯切りしやるな、帯の
切れるは、厭いは無いが縁の切れたは結ばらぬ、